

ゲーテ・インスティトゥート本部の 2023 年 9 月 27 日の 理事会決定により日本の拠点ネットワークに及ぶ影響

ゲーテ・インスティトゥート本部は一昨日の理事会で、グローバル展開する組織を大幅に改変することを決定致しました。それは、ゲーテ・インスティトゥートの理事会がドイツ連邦外務省との戦略的対話の中で編み出した、将来的なコンセプトに基づくものです。組織改編の背景にあるのは、地政学的、財政的な環境条件の著しい変化です。目指すのは、ゲーテ・インスティトゥートの文化・言語・情報といった活動分野での行動力を世界的に拡大することです。他国からの専門知識を有する労働力の受け入れの分野での活動やデジタル化も、更に進めて参ります。加えてゲーテ・インスティトゥートは中・東欧、コーカサス諸国、南太平洋並びに米国中部における活動を強化致します。こうした新しい動きは、他地域における拠点での削減を伴わずしては行えません。必要な費用削減につなげるべく、拠点の閉鎖や人員削減、効率向上化の為の施策実施が行われることとなります。そうすることによって、ドイツのことを他国にお伝えするという使命を持つ最大組織であるゲーテ・インスティトゥートは、グローバルなパートナーシップに向けての活動においても長期的に力を発揮し続けることができるのです。

本部の決定の中には、ドイツにとって重要なパートナーである日本のゲーテ・インスティトゥートの業務にも関わるものがあります。グローバルな改変を進めていく中で、日本の各ゲーテ・インスティトゥートは、重点的役割を一層明確にすることや、ドイツ語コースの採算に注目し、新たに立て直します。

そのような理由から、ドイツ連邦外務省との熱心な戦略的対話に基づき、施策の一環として、大阪のゲーテ・インスティトゥートを閉鎖することを、本部理事会は 2023 年 9 月 27 日に決定致しました。同館はドイツ語コースの提供や、ドイツ語試験を実施しておりますが、2024 年末迄に閉鎖致します。大阪でのドイツ語コースは数年来採算が取れておらず、文化部門は列車で一時間ほど掛かる京都のヴィラ鴨川のスタッフが担当しております。この度の改変後は、ゲーテ・インスティトゥート京都は純然たるアーティスト・レジデンスに専念し、日本及び東アジアにおける文化プログラム業務を担う、重要な拠点の一つとして存続します。

東京はこれまで通り全部門を有するインスティトゥートとして存続します。東京は移転が計画されており、計画通り移転しますとスペースは手狭になります。立地場所及び新たに計画されている建物により、視認性やアクセスは向上致します。そのことにより、同館は今後一層モダンかつ時代に適合した姿となり、業務の経済性もアップします。

各館のドイツ語コースのオンライン授業は、今後は完全に東京から実施することとし、これは日本におけるドイツ語教育機関との協力における業務についても同様です。大阪閉館後は、関西地域におけるドイツ語試験も東京が担当致します。

閉館や組織の変更といった措置は、世界の数多くの国と地域において同様に行われることとなっております。この度の本部理事会の決定に人員削減を伴うことは、大変遺憾です。そうした人員削減が社会的に受け入れられる形で、また、各国それぞれの法規を遵守する形で行われるように進めて参ります。

ゲーテ・インスティトゥートは、独日協力関係には欠かせないものとしてあり続けます。力強いパートナーの皆様方と共に、各館の行動力を強化し、多くの人々が我が国ドイツのことを知り、ドイツ語を学び、私共の社会の強さ、弱さを理解して下さるよう、今後も貢献して参りたいと考えております。